

研究室名	<b>植物生理学研究室、先端機器分析センター 論文発表</b>
------	---------------------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

発表時期	2020年
題名	Cell-cell adhesion in plant grafting is facilitated by $\beta$ -1,4-glucanases.
掲載雑誌	bioRxiv 2020.03.26.010744; DOI: 10.1101/2020.03.26.010744
著者	Notaguchi M, Kurotani K, Sato Y, Tabata R, Kawakatsu Y, Okayasu K, Sawai Y, Okada R, <u>Asahina M</u> , Ichihashi Y, Shirasu K, Suzuki T, Niwa M, Higashiyama T. (※; 卒研生または大学院生、アンダーライン; 本学教職員、研究員)
概要	接ぎ木とは、根部をなす台木と、地上部をなす穂木の有する優れた能力を共に発揮させる方法であり、園芸・農学への寄与は大きい。しかし、これまでに接ぎ木がどのように果たされているかは不明な点が多い。特に分類学的に科が異なる植物との接木「異科接木」は不可能と考えられていたが、名古屋大学の野田口博士らは、タバコ属に類する植物が独特な接ぎ木能力を持ち、様々な植物種と接木できることを発見した。本論文は、これらの分子メカニズムに関する研究について得られた成果を報告したものであり、本学では、レーザーマイクロダイセクションを用いた細胞組織の回収を担当した。